

## 第2回 学校運営協議会 議事録

令和8年5月19日(火)

記録：副校長

参加者：三村委員長、星加副委員長、大久保委員、荒井委員、野島委員、青山委員、高澤委員、（事務局：宇野、伊藤）

### 1. 委員長あいさつ

- ・お忙しい中、ありがとうございます。
- ・栃木県であった16歳の少年の事件が世間を賑わせている。この間まで小中学生だったということを考えると、他人事・どこかで起きた事件では済まされるものではない
- ・先日少年院を訪れる機会があった。少年院に入っているお子さんは様々な事情を抱えている。その子達や栃木の16歳のお子さんにも通じ得るのが、断れないというところである。様々な誘いに、つられてしまう子を正しい道に戻してあげるのも我々の出来ることの一つではないか。
- ・子供の変化に気付いてあげる余裕が大人にあれば、救えるのではないか。出来ることをやっていきましょう。

### 2. 校長あいさつ

- ・学校公開へのご参加ありがとうございました。合わせてさくらサロンの開設もありがとうございました。
- ・今回の公開では、チーム担任制を見ていただく機会となった。帰る際に声を掛けることのできた保護者は笑顔で帰っていたので、肯定的に受け止めてもらえたようだ。
- ・保護者と一緒に栽培活動をしたり、算数に取り組んだりしていたりする授業があった。その中で、保護者が来ていない家庭のお子さんも他の保護者が一緒に見てくれており、みんなで見守っているという印象を受け、嬉しく感じた。
- ・スポーツテストや諸活動で保護者の方のお手伝いをいただいている。今度の音楽のリコーダーの導入でも学運協の委員が声を掛けてくれており、ありがたい限りである。

### 3. 学校の様子について(生活指導主幹)

- ・あいさつ運動が始まった。高学年が元気に挨拶をしてくれている。イベントで終わらないように、日常的に継続的にやっていくことが大切だと感じている。
- ・毎週金曜のいじめ対策委員会では、先生方が小さいことも全体に上げてくれている。チーム担任制のメリットを活かし、聞き取りもチームで行っている。
- ・闇バイトの指導を小学校でも行うようになっており、保護者も参加できる機会を設定できればと考えている。日常的な生活指導でも、流されない強さをもつことができた子を価値付けて、判断力を育てているところである。

#### 4. わくわくスタディの進め方について

- ・明日（5/20）から開始する。
- ・参加する子のやりたいことに寄り添いながら、マンツーマンだと取り組める子が救われる。そういった子たちの居場所づくりも兼ねて続けていきたい。
- ・先生方にも声掛けをお願いしたい。
- ・下校時刻が遅くなるお子さんへの連絡も確実に行っていく。

#### 5. 情報交換

- ・研究主任が取りまとめたチーム担任制についてのアンケート結果について、校長から説明があった。
  - 80%程度の子供たちは比較的に肯定的に受け止めている。
  - 委員より「保護者向け学校評価の項目の中にチーム担任制のことについて入ってくるのか。」という質問が出された。
  - 学校評価とは別だが、何らかの形で保護者の意見も聞いていく。
- ・さくらサロンで出したおもちゃの中に、乳幼児が誤飲してしまう危険性のある物が無かったかについて話し合った。
  - 保護者が乳幼児から離れることのないよう呼び掛ける。
  - 次回サロン開設前に危険性を再度検討し、誤飲等が想定されるおもちゃについては提供を取りやめてもよいのではないかと感じている。
- ・第八学童保育所の運営について3点情報提供があった。①5年の移動教室振替休業日に一日開所すること、②6/20（土）に高学年でボーリング大会に行くこと③夏休みだけ学童を利用したいという申し出を受けていること
- ・さくらサロン 今年度の利用は50名（R7は49名）学童の問い合わせもあった。
- ・わくわくワーク後の懇談会の日程について検討した
- ・栄養士が給食室前に制作した、子供の質問に答えるコーナーや給食の作り方をQRコードで読み取ることが出来るコーナーが工夫されていて良い。
- ・8/22, 23に石川市民センターにて開催される石川町の夏祭りの案内があった。
- ・さくらっ子では元気な子が、真面目に授業を受けていた。さくらっ子では、自分を解放してくれていると感じ、嬉しくも思った。
- ・自身の経験から、チーム担任性は固定担任制のマイナスの部分を払拭してくれる良い試みである。